

こんな未来は許せない!

政府が描く、2025年の医療・介護の将来像。それは国にとって「安上がり」な医療・介護提供体制づくり。

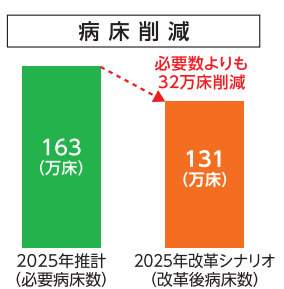
政府は、病床機能の見直しを「川上」、その受け皿となる在宅・介護保険の見直しを「川下」と表現しました。その意味は、あたかも水が上から下へと流れるように、患者を入院(川上)から在宅(川下)に押し流すことで入院の医療費を削減。そうすると、在宅や介護費用が増えるため、介護保険を改悪して介護サービスを削減しようという「将来像」です。



医療の追い出し 「病院から追い出される?!

入院ベッドの削減と入院日数の短縮

2025年に必要とされる病床数163万床(一般病床と療養病床の合計)から131万床へと32万床も削減。特に、重症・救急に対応する看護体制の厚い病床は、現在の半分に減らす方針。病床数の削減に合わせて、入院日数も大幅に短縮していく方向です。

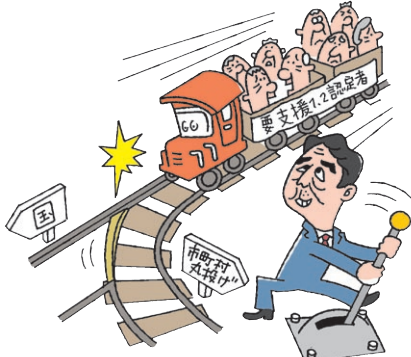


介護の切り捨て① 「訪問介護・デイサービスが受けられなくなる?!

要支援者の訪問介護、デイサービスを縮小・打ち切り

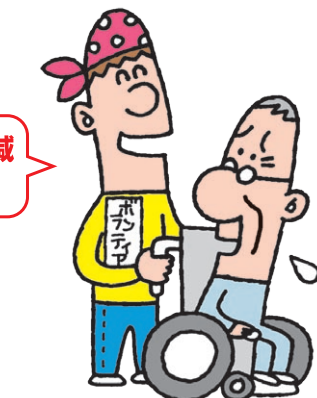
「給付」から「総合事業」へ移し替え

市町村が実施する「総合事業」では…

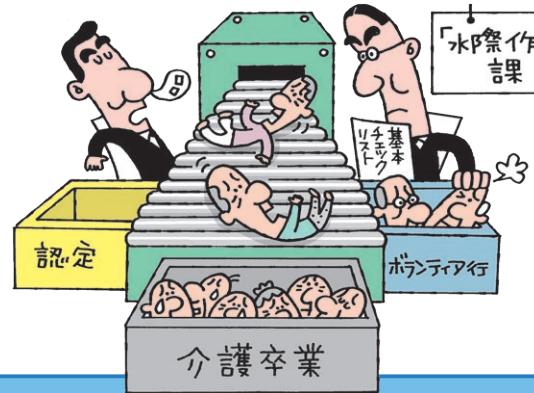


ヘルパーなど専門職による「専門的サービス」が、ボランティアなどによる「多様なサービス」にどんどん移り替わられます。

介護費削減がねらい!



新たな振り分けのしくみで介護は「卒業」へ



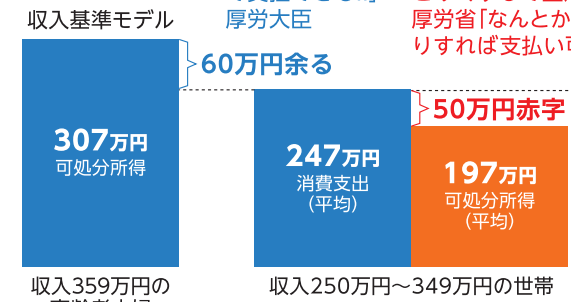
事例 軽度の認知症があり、糖尿病が悪化して透析にならないように調理をヘルパーに援助してもらっている。長年暮らしてきた自分の生活にこだわりがあり、サービス担当責任者がその都度いねいに精神面も含めて支援。時にはヘルパー交代もしながら生活を支えている。ボランティアでは援助できない。(70歳女性、要支援2、独り暮らし)

介護の切り捨て②

「利用料値上げ? 支払い可能?!

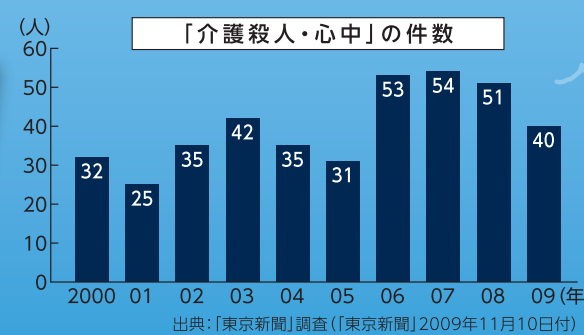
利用料2割化の根拠はでたらめ!!

▶厚労省の説明「60万円余るので負担できる!!!」
▶現実…50万円不足で貯金をとりにくくして生活。厚労省「なんとかやりくりすれば支払い可能」



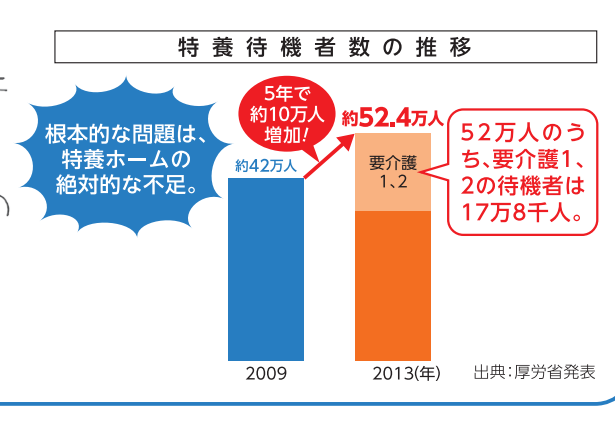
川下にもとどまれない人たちは…

「行方不明認知症高齢者」(2013年1年間で10,322名)、減らない「介護殺人・心中」、「孤独死」。



介護の切り捨て③ 「特養に申し込めなくなる?!

特養から要介護1・2を原則排除



高所得者はいたれりつくせり

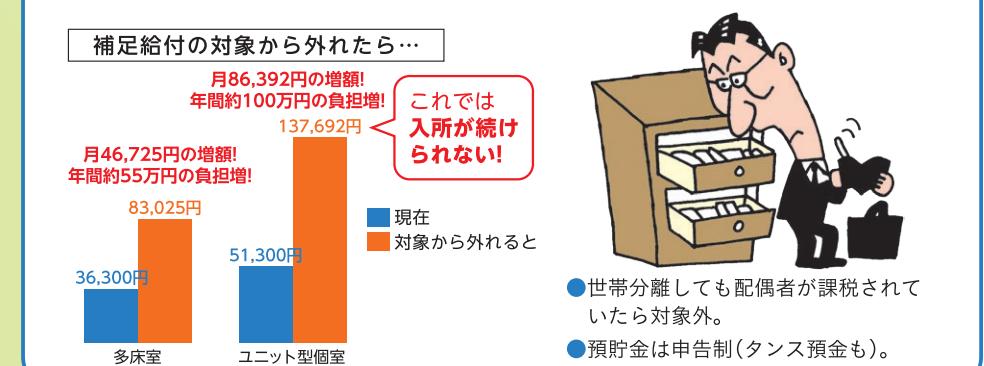


高額有料老人ホーム

介護の切り捨て④ 「低所得者は特養から出ていけ?!

施設の費用負担軽減制度(補足給付)を縮小

低所得者を対象とした施設の居住費・食費負担に対する軽減制度(補足給付)。特養で7割、老健で5割の人がこの制度を受けて入所しています。



●世帯分離しても配偶者が課税されていたら対象外。
●預貯金は申告制(タンス預金も)。

介護現場は、もう限界

全産業平均よりも月9万円も低い介護職員の給与…

職種	給与
介護職	20万7,795円
全産業	29万5,700円

介護報酬は、介護保険スタート時の水準から、2.5%も引き下げ!!

改定年	増減率
2003年改定	▲2.3%
2006年改定	▲2.4%
2009年改定	▲3.0%
2012年改定	▲0.8% (実質)
2003年~12年改定合計	▲2.5%

介護職員の給与が低い原因は、介護事業所に支払われる介護報酬が低く抑えられているためです。

ホームヘルパーの声!! 今の仕事が嫌にならないようにしてほしい。好きで始めた仕事が嫌になるのは辛い! 生活が安定するように介護報酬も考えてほしい。不安が多くては良いサービスができない!

政府が示す「将来像」は、拒否すべき「未来像」!

これから高齢化が急速に進む日本。医療費・介護費削減一辺倒では、安心した老後は実現できません!